

第 39 回市民ふれあいトーク 「スポーツをテーマにしたまちづくり」

日時 平成 24 年 8 月 31 日 18:30~20:00

場所 くらしき健康福祉プラザ 201

要約版

市長

皆様こんばんは。夕方のお忙しい時間帯に、市民ふれあいトーク、スポーツをやることによって元気な町をつくっていこうというテーマで多くの皆様にお集まりいただき、誠に有難うございます。市民ふれあいトークは、昨年の 10 月まで行ってきたわけですが、その後、選挙の関係などあり 5 月から新たな任期になり、取り組みを行うことになりました。この場所は私が 1 期目の任期の時に、最初に市民ふれあいトークを行いました。私にとって記念すべき場所です。2 期目もスポーツのまちづくりということで、場所もこちらになり、非常に嬉しく思っております。今日は、「スポーツをテーマにしたまちづくり」ということで、皆さんと一緒に意見交換をしていきたいと思っております。今日は私もスポーツということで、ジャージと T シャツで来ようと思っていたのですが、後ほどお話を申し上げたいと思うんですが、お昼に、全日本女子バレーボールチーム女子主将の荒木絵里香選手に倉敷市民栄誉賞をお渡しをする表彰式がありましたもので、そのままの格好で失礼いたしております。最初にスポーツにつきまして私が思っていることについてお話申し上げ、次に、スポーツに関係する団体の皆様から、折角皆様が参加をしていただけるわけですので、活動などについて少しご紹介をしていただきながら進めてみたらどうかということで、今日初めての取り組みでございますが、市民の皆様からの発表も一緒に言っただくということにさせていただいておりますので、よろしくお願い申し上げます。

この「スポーツをテーマにしたまちづくり」ということでございますが、今日昼に倉敷市出身の荒木絵里香選手が倉敷市民栄誉賞に表彰となりました。倉敷市で小学校、中学校まで過ごされ、今、東レアローズに行かれて、日本の女子のキャプテンで、今回の銅メダルの素晴らしい活躍をされ、星野仙一監督、前回のバンクーバーで銅メダルを取られた高橋大輔選手に引き続いて 3 人目の市民栄誉賞ということで、本日お昼に表彰をいたしてまいりました。また、今年は直ぐ前の夏にも倉敷野球部が 100 周年の節目の年に、甲子園でベスト 8 ということで非常に倉敷市内のスポーツの気運も益々盛り上がっていると思っております。私が今回、オリンピック、野球などを通じて感じましたのは、スポーツ、勿論それぞれのスポーツは個人個人でやるスポーツが多いわけでございますけれど、その多くは人との繋がりといえますが、チームのものについてはチームワークが重要であり、それぞれのスポーツについても人との係わり合いが多いものが、非常に市民の皆様にご元気をいただけるものじゃないかと、今年のオリンピックなどを通じまして感じたわけでございます。倉敷市では昨年の 1 月にスポーツ振興基本計画を初めて作りました。スポーツにしっかり取り組んでいこうということを、明らかにしていこうと、何年か審議会の先生方にもお願いをしまして、色んな意見を伺って計画を作ったのが、このスポーツ振興基本計画でございます。平成 23 年度から、大体 10 年間の計画で、倉敷市のスポーツについて今後の目標を作っていくということです。大きくは 3 つ。このスポーツの目的といえますが効用について書いてあるのが、計画の中で「する」「見る」「支える」。聞かれた方もいらっしゃると思いますが、自分自身が「する」スポーツ、応援をしたり、あの選手は強くてすごいなあと言って「見る」スポーツ、そして「支える」スポーツです。例えば応援をした地域で支えたり、その選手、また周りの皆さんと触れ合うことによって、自分も元気にな

っていくという、大きな3つの柱に基づいて計画が作られております。その中で大きく2つの目標があるんですけど、その計画が出来る前と計画が出来た後がどう違うかと申しますと、この大きな目標が大人の方が週1回以上のスポーツを楽しんでいる割合というもので、平成21年が28.2%だったものを10年経って計画が終わる平成32年には、50%までになっていこうということが一つ。もう一つが、国民体育大会に倉敷から選手が毎年出ているわけですけど、平成21年計画が出る前の時には、157人ですけど、これを200人に増やしていこうと、大きく2つの目標が立てられております。今、毎年少しずつ数値が上がっているものもあれば、下がっているものもあるわけですが、こういう目標なども使いながらスポーツを振興していこうということでやっております。

後ほど各団体の方から少しずつお話をいただけたらと思いますが、スポーツについて私が思いますのは、幾つかの面があると思っております。一つには今日表彰がありましたけれども、荒木恵理香選手、高橋大輔選手、倉敷野球部の皆さん達など、優秀で強い選手の皆さん達がいらっしゃって、その方たちが倉敷市の出身である。その方たちを見て、すごいなあとか、元気をもらえるなあとか、自分もこういうふうになってみたいなあとと思う、目標となって皆が元気になるような素晴らしい競技スポーツ、その種目を専門に頑張っている方が多いですけど、そのスポーツの分野が一つあると思えます。そして、多くの場合は、我々一般のスポーツをするものとして、自分たちが健康で元気でいられる、そのためのスポーツというものが非常に大きいと思えます。強い選手というのは、簡単には出てこないわけですけど、多くの人たちはスポーツを楽しんでいこう。スポーツには色々なスポーツがあると思えます。体調の関係とか障がいのある方はスポーツがなかなかしにくい方もいらっしゃいます。障がいのある方もたくさんスポーツをされているわけですけど、その中で、自分はスポーツが出来ないけれど、スポーツをしている人たちを応援したり、触れ合うことによって自分が元気になる。そういう面も大きいのではないかと思います。さっき申し上げました「する」スポーツ、「見る」スポーツ、「支える」スポーツなどと繋がっていくのではないかと思います。

ご存知のように、最近、夏の倉敷国際トライアスロン大会を行いました。全国から700名近くの方が来て下さいます。倉敷市内の方もたくさんいらっしゃるわけですけど、全国に倉敷の良さを発信するということにもなっていると思えます。スポーツというのは色々な面を持っているのではないかと思います。スポーツをテーマにして市民の皆様がますます元気になっていただいて、倉敷の良さをもっと全国に発信できるようになればと思い今日のテーマを選ばせていただいております。

今から各団体の皆様から、ご活動のことについて、スポーツについてどういう思いをもっているのかを少しお話をいただいた後に、意見交換という形でさせていただければと思いますので、よろしくお願い致します。

倉敷市体育協会代表 Aさん

体育協会は、市民のスポーツ活動への更なる貢献を目指して取り組んでおります。スポーツの更なる発展、振興、市民の皆が心身の健全な発達と明るい豊かな市民活動の向上を目的として、スポーツに関する調査、研究、各種行事の実施並びに講演、指導等を行っております。一般加盟団体として約690団体、1万3千人が加盟しており、中高高校生を含めると2万6千人が加盟。全体で37の専門部が1年間を通じて様々なイベントや大会を企画、運営することで、市民にスポーツが身近に感じられるような環境づくりに努めてい

ます。専門部は、陸上競技とかテニスとか野球というようなスポーツの団体です。その他、協会内では5つの専門部会、総務部会、生涯スポーツ部会、スポーツ医科学部会、競技力強化部会、法人化準備財務部会等があり、それぞれ協会を取り巻く現状と課題に対して、調査検討する機関としての役割があります。特に市スポーツ基本計画、先ほど市長がおっしゃっていたものですが、協会としてどのような取り組みを今後実施していくか、議論を深めているところです。

競技力強化については、今年度の倉敷市および川崎医療福祉大学と協力し、各専門部選出のジュニア指定選手が選手の医科学的な調査分析に基づいた医療相談とサポートを受けることで、競技力向上並びに発展に大きな成果を残しております。川崎医療福祉大学の長尾先生のご指導をいただいております。10月には倉敷市民スポーツフェスティバルを開催し、昨年第6回は延べ17,300人の参加がありました。本協会も役員として実行委員として大会運営の中心的な役割を担っております。それぞれの担当部門において尽力しています。今後もスポーツを通じた本市の活性化や世代を超えて市民の皆様がスポーツに親しむことができる環境づくりを目指して協力していきたいと考えております。

倉敷市スポーツ推進委員協議会代表 Bさん

倉敷市のスポーツ推進委員活動について、ご報告をいたします。従来、体育指導委員という名前で親しまれてきましたこの団体は、昨年度全国的に改正されましたスポーツ基本法によりスポーツ推進委員という名前に変わりました。その位置付けは、「住民がスポーツをする上での連絡調整役に徹しなさい、従来は競技、技術を指導する役割だったんですけど、もう一段下に入って支えなさい、連絡調整をしなさい」という役割になっております。世話役になっております。私どもが考えるスポーツといいますのは、いわゆる体育といいまして競技スポーツではなくて、体を動かすことを全てスポーツと思っております。例えば散歩する、海水浴、ゴルフ、全てスポーツでございます。私どもそういうスポーツを倉敷市の皆さんに推進して行こうという役割だと思っております。スポーツ推進委員は、現在119名おります。市内小学校校区会に選出され市長から任命されます。非常勤の職員の位置付けになっております。仕事は学区、地区の地域活動が一つ。二つ目は、市が主催するトライアスロン大会とかフェスティバルとかツーデーマーチとか、大きいイベントの色々な役員としてのお手伝いです。年間8回は活動を、と言われております。平成23年度の実績では、1人当たり23回程活動しておりまして、8回を越えますとボランティアで活動しております。8回したからいいんじゃないかという方もいらっしゃいますけれど、今年も半ボラ、半分のボランティアということで、楽しくやりましょうよということで、皆と活動を進めております。一方、倉敷市スポーツ振興基本計画は昨年度からスタートしました。この計画の中身は多岐にわたっております。そのなかでスポーツ推進委員が担当する12の課題がございます。その12の課題を整理しまして、1つは既に事業が始まっている、それでたくさんの方が応援しましょうよ、というのが一つ。2つ目が既に動いているけど、何かちょっと手直ししないと今のままでは調子悪い、このままでは、うまいこと進まないよ、というテーマもございます。3つ目は、これはどういうふうに手をつけるか判らんなあというテーマもございます。この3つのテーマに総分けをしまして、今年からそれぞれのテーマをそれぞれの分担を決めながら、解決をしていこうと考えております。少しずつ進み始めました。掘り進める中で委員の中には参加できる時間、参加する意欲にやはりばらつきがありまして、これをどのようにして進めていくかというのが、

私どもの一番大きい課題になっております。

最後にスポーツ推進委員の資質は、真摯さかと思っております。真摯は ladies and gentlemen の紳士ではなく、真面目とかひたむきという意味の真摯です。最近のテレビで有名になりました「もし高校野球の女子マネージャーがドラッグのマネージメントを読んだら」、「もしドラ」というテレビの番組があったのをご存知の方がいらっしゃると思うんですけど、そのマネージャー川島みなみ、非常にいい子で、架空の人物ですけど、その子は非常にひたむきにマネージャー役を進めております。スポーツ推進委員はまさにこれだなということで、皆が川島みなみになってくれれば、倉敷市は素晴らしいスポーツの町になるんじゃないかと思っております。

倉敷市生涯スポーツ推進協議会代表 Cさん

私は、生涯スポーツ推進協議会の中で、3団体が加盟しております倉敷市ニュースポーツクラブ連合、5名の方は、年2回ニュースポーツの教室をされており、その教室で今これからしたいなと思っておられるのが、子どもさんでスポーツをあまり得意とされていない方を中心に進んでいきたいということをおっしゃられます。市バウンドテニス協会の方は、年2回公認大会をしておられますが、人数は約100人の方が登録されているそうです。一般の方も参加できるようになっておりますが、なかなかバウンドテニスを知っておられなくて、今まで参加されてる方がいらっしゃるということで、今回バウンドテニスをしっかりと皆さんに知っていただきたいということです。市ソフトバレーボールクラブ連合は、年4回公認大会をしております。公認大会の中の3大会は、市民が中心となって出来るようにと、市に住んでいる方、お勤めされている方、クラブ連合に所属していらっしゃる方を中心になっております。18歳以上の方ということになっており、高校生は遠慮していただいております。市民一般の方は、大体7、8チームの方が参加してござっております。もう一つの大会は一人でも参加できるようにと、その日の大会に集まった方でチーム分けをしております。もう一つがクラブ連合に所属してござっている約350名の方の大会といたしまして、県内外のチームの方をお呼びして交流を深めております。

生涯スポーツに携わっているということ、誰でも参加できるようにしたいというのが目的です。今協力しているのが、トライアスロン、市民スポーツフェスティバルで、スポーツフェスティバル大会を中心にさせていただいております。これは本当に小さい子供さんから高齢者の方まで参加して楽しめるニュースポーツです。皆さんも家族そろって参加していただければと思います。市長さんもぜひ参加していただければと思います。

倉敷市スポーツ少年団本部代表 Dさん

倉敷市スポーツ少年団です。我々が属しております組織の名称は、日本スポーツ少年団本部といい、本部の一員として活動させていただいております。スポーツ少年団が創設され、今年で50年を迎えることになりました。去る6月23日東京品川プリンスホテルにおいて秋篠宮殿下、同妃をお迎えして盛大な記念式典が行われました。50年の歴史が刻まれた組織は1962年から、スポーツによる青少年の健全育成を目的として活動を続けています。現在、全国で団数約3万6千団、団員数約86万人を有する日本で唯一の青少年団体として成長しております。こんな実績を上げることができたのは、組織の整備、会員スポーツ団の団結の促進、活動の充実などを指導者を中心として、関係者の協力と努

力によって実現したものです。ちなみに岡山県のスポーツ少年団の登録数は、団数763団、全国で23番目です。指導者数は6,631人、全国で6番目です。団員数18,291人で全国17番目の順位です。倉敷市では登録団数73団、指導者数311人、団員数16,203人が登録しています。全国のスポーツ少年団86万人全員のやっている種目はそれぞれ異なっていますが、同じ次元を共有してスポーツに励んでいる基本的なことを紹介させていただきます。一つ、私たちはスポーツを通して健全な体と心を養います。一つ、私たちはルールを守り、人に迷惑を掛けない立派な人間になります。私たちはスポーツによって自分の力を伸ばす努力をしています。一つ、私たちはスポーツの喜びを学び、友情と協力を大切にします。一つ、私たちはスポーツを通して世界中の友達と力を合わせて平和な世界をつくります。以上スポーツ少年団の理念の一部を紹介させていただきましたが、我々は勝つことだけを目的とせず、この理念に従って健全な肉体と心を育成するという大きな計画、目標を持っており、これに邁進しているところでございます。

市長

ありがとうございました。今お聞きいただきましたように、倉敷市内にはスポーツにかかわっていらっしゃる方、今お話をいただいただけで、青少年のスポーツ少年団の皆様、指導員の皆様方、ニュースポーツとしてバウンドテニスやソフトバレーボールなどクラブ連合としてやっていただいている多くの方がいらっしゃる生涯スポーツの皆様方、そして体育協会として専門部をもたれて、各部で色々な競技スポーツの方も非常に多いわけですけどスポーツを強く、こういうふうになってみたいという方が、頑張られる体育協会として各学区でスポーツの推進にご尽力をいただいているスポーツ推進委員さんと、4つの団体の皆さんに発表をいただきました。

これからの時間、今の4人のお話を聴かれてそれに基づいて、また基づかなくても結構でございますが、自分がスポーツについて思うこと、こうだったらいいなあとか、市のスポーツがこういうところが改善されたらいいなとか、やり易いなとか、そういう観点でお話をいただければと思っております。今回からこのような形で各団体の皆様からお話をいただいて、活動のことも判っていただき、ご意見もいただいて、市のスポーツがよくなっていけばいいなあとと思っております。

参加者Eさん

今日4人の方の色々話を聞いたので、知らないことを勉強させてもらってありがたかったです。私は野球が好きで、特に甲子園の球児が好きだったんですけど、今年から考え方が変わりましてサッカーがすごいなあと。なでしこが出てきたんで、宮間選手も倉敷に来られましたしね。宮間さんのチームメートのお話を聞くと6歳からやられて、ゴールキーパーの福本さんも8歳からやられて、非常に二人とも子どもの時から、そういう今一番底辺の幼稚園、小学校ぐらいから子どもに触れさせると将来の宮間さん、福本さんみたいな人が出てくるんじゃないかと。私は男性なので星野仙一さんが非常に好きでしたけど、これからはチーム力を中心とする、女子の子どもサッカーとか、男子の子どもサッカーとか、団体スポーツを子どもにふれさせる機会をつくるのも、我々大人の役割じゃないかと思うのです。

私は今年の夏休みは40日ほど、毎朝ラジオ体操を365日やっているんですけど、今年は子どもが非常に参加してくれたんです。最初は7月20日だったですか、子どもが夏

休みになりボツボツ来だして、段々増えてくるんです。これは私の考えですけど、やっぱり判子ですね。大人が突いて、判子を突いてやるとそれが非常に励みになるので、単純なことですけど毎日やると、子どもの方から、「おじちゃん、おはようございます」と。私が判子を突いてやりますと、純粹に子どもが、「ありがとうございます」と言うんですね。他の子どもも同じ様に言うんです。家庭に帰って家族に、今日こういうことがあった、と話をすると、家族も、「すごいなあ、どこのお父さん、お母さん?」、と言うんですけれど、子どもは親に言われて言よんかも知れませんが。毎朝眠たい顔をして来て、ラジオ体操を真剣にやると汗びっしょりになります。私も一生懸命、子どもも済んだら汗びっしょりです。お母さんが付いて来て汗を拭いてやったり、親も子どもも一生懸命なんです。将来を聞くと、サッカーをやりたいとか、男の子は野球とか、柔道とか、水泳とか、色々言うんです。さっき、先輩方が言われてたように、中学生、高校生に行く前に幼稚園、小学校ぐらいから、そういう機会にふれさせてやると。毎日子どもはオリンピックを見とんです。今日の北島はすごかったなあ」とか、「今年は大したことねえ思うとったのに、リレーで1位になったで」とか子供が言うわけですよ。おおすごいなあ。子どもがこういうことをするかと、次の日になったら柔道だったかなあ、松本選手が金メダルを取ったでしょう、「女子もすごいなあ」と子どもが言い出して。これはさっき市長が言ってた「見る」スポーツ、「支える」スポーツ、我々大人が子どもと一緒に話をすると、刺激になって将来の市民栄誉賞がもらえるような子どもが出てくるんじゃないかなと思うので、そういう機会を子どもにつくってください。

市長

ありがとうございます。ちなみにそのラジオ体操は何処でやっているんですか。

参加者Eさん

昔の市役所です。今は市立美術館の前で、365日雨が降ってもやっています。大体大人35人。雨の日は15、6人に減ります、今年は子供が10人以上毎日来てくれました。

市長

夏休みに、ちなみに家の近くでラジオ体操をされている。ちょっと皆さんにもお伺いしたいんですけど。家の近くでラジオ体操をされている所があるのを見たことがある方はいらっしゃいますか？全域でやっているわけではないんですかねえ。ちなみに何処で？

《参加者》

足高山の上。天城台の集会所で、7月だけ、1週間で終わってしまいます。

市長

ラジオ体操について、何か他に意見がある方はいらっしゃいますか。素人考えですけど、今でもやっているんでしょうか、かんぽのラジオ体操がテレビでたまに大きな人数でやられているようなことがあると思うんですけど。

《参加者》

全国的に、今もそうです。

市長

なるほど。ラジオ体操を見直すということが非常に重要なのかなと思ったんですけど。

参加者Fさん

今24年度の活動の内容にラジオ体操をやってみようじゃないかということで、始めました。実際には、まだラジオ体操をやっているわけじゃないんですが、やれるような雰囲気づくり、これをつくるためにどうしようかというのを検討中であります。インターネットで調べて、5人ぐらいのグループで健康づくりの会の企画部門というか、事務局的な役割で私たちはやっているんですが、その席でラジオ体操、ネットで見ますと色んな所でやられてますね。市長がおっしゃったように、全国的なスポーツ活動になっているようですね。実はその提案されたのはこちらにおります彼女で、彼女児島の健康づくりを考える会のメンバーなんですけど、彼女が提案してくださいます、その最初の話は夕張の地域を活性化させるために、その話がありまして、これはいいなあと。付け加えて私が思ったことを言いますと、ラジオ体操からちょっと離れますが、今日のテーマは「スポーツをテーマにしたまちづくり」です。先ほど色んな方にご報告いただいたんですが、競技のスポーツという面が強く出ているような気がしたんですが、ここでのテーマはまちづくりで、むしろラジオ体操のようなものを広げていって、地域の人が今高齢者が多くなっていますけれど、元気な高齢者を増やすというより、病気になる高齢者を減らすということで、そういう意味のまちづくり、スポーツをテーマにしたまちづくりと最初から捉えていたんです。そういう面でラジオ体操というのは非常に良いテーマだと思う。ラジオ体操が今小学校でやられてないんです。僕は初めてこの前知ったんですが、ラジオ体操そのものを知らない子どもたちが多いい。ですから、小学校で復活させることを提案させていただきたいと思います。

市長

日頃手軽に出来るスポーツとしてのラジオ体操ということをお願いいただきました。このテーマのまちづくりは、両方あると思います。強い選手が出るまち、高橋大輔選手とか星野さんがいることによって、全国でスポーツが盛んなまちと思われるまちづくりと、健康な、皆が健康でいられるまちづくり。大きく2つ面があると思っており、その面でラジオ体操、それから中国に倉敷市の姉妹都市の鎮江市という所がありまして、鎮江市に行った時に、朝、人民広場、中央広場で、太極拳を皆さんがされているんです。何日が泊まって毎日すごい数でしていらっしゃったので、あれが向こうのラジオ体操のようなもんかなあと思ったんです。おっしゃったように、子どもさんも手軽に出来る、歳を重ねても手軽に出来るという観点は非常に重要な所だと思いますし、小学校でラジオ体操を今はやってないというのを聞きまして、びっくりしたんです。早速、教育委員会に聞いて見たいと思います。何故してないんでしょうかね。体育祭、運動会の時はしていると思うのですが。

《参加者》

してないですね。

市長

してないですか。びっくりしました。

参加者 E さん

言い忘れたんですが、今全国的にブームになっているのはNHKが力を入れとんです。持って来る子供が全部簡保のカードを持って来とんです。カードに「おじちゃん、ここに判子を押してください」と。非常に子供の関心が強い。今NHKがやっている全国都道府県を全部1年にいっぺん、岡山県にも今年来とんです。市長がその気になって申し込みされたら、倉敷市は来年呼べます。マスカット球場、市役所、芸文館もいいし、みらい公園もいいし、倉敷市はするところがたくさんありますから、よろしくをお願いします。

市長

一回、かんぽに聞いてみます。ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

参加者 G さん

ラジオ体操について今は、なんとか小学校体操というような、オリジナルの音楽でオリジナルの振り付けで運動生理学的にもっとグレードアップしたものを使ってやっている所が多いと思います。ある程度高齢の方だとあのテンポであの運動をするのは、かなりハードルが高いのかなあと言う気はしています。

あとはまちづくりということで、市民が元気に暮らせるまちにということで、自転車の話をしたいと思い、移動手段としての自転車という部分は当然ありますけど、遠距離は歩くのは大変だけれど、自転車なら行けるというようなこともあったりして、移動単位で運動が出来る。それからリラクゼーションというか、毎日地球上の色々な所を走ることによって、メンタルな部分での効用も多々あるということで、もっと自転車を日常生活に取り入れた倉敷になるようなまちづくりにしたい。その為の自転車が走れる安全な道路の整備とか、自転車も法律上は乗物なので、法規、法律的なことも、知っておかなければならないだろうということもあって、どこから手をつけれるか判らないですけど、サイクリングロードを何ヶ所か造るとか、そこまでいけないまでも、安心して自転車に乗れるような環境をつくってもらいたいということで、今日は伊東市長にお土産を持って来とんです。これが今、中学生が使っているもう何十年も替わっていない南中の帽子ですけど、ヘルメットのことを今日調べたんですけど、スポーツ用の穴が開いたものがあります。一長一短あり、どっちがどうとも言えない。その分だと強いけど通気性がないから中が蒸れて暑くて、冬は暖かですけど、物によっては通気性のある穴をちょっとだけ開けてあるものも今開発されていたりするので、子どもたちがより快適に使えるようなヘルメットを行政として推奨できるかどうかわかりませんが、業界団体とものづくりの話ですので、安全と安心と健康になれるようにしていただければと思います。

市長

自転車については、まだ倉敷市内では自転車道の整備は進んでいないですけど、場所によって、児島地区の風の道とか、徐々に整備しています。自転車の基本計画を平成23年度につくり、まだ皆様には知られてないんですが、倉敷市では自転車道が整備されている所は結構あるんです。それをもっとPRしないといけないなと、今話を聞いて思いました。

今のヘルメットは、中学生はヘルメットをかぶってくださいと中学で指導しているわけです。ヘルメットの形、強度、通気性と色々新しくなっていくことも、時代で違うと思いますけれど、自転車道の整備も、健康にもいいし環境にもいいので、自転車の施策を進めていきたいと思っております。一足飛びには進まないですけど、頑張ります。

参加者 Hさん

ライフパークを使わせてもらってるんですが、2つほどお願いがあるんです。2ヶ月前に申し込みに行かないといけんです。おまけに複写で書かにもあいいけん。今のところ年金株式会社勤めているので、土曜日、日曜日、祭日なんで行けるんですが、もしこれが若い衆だったらどうなるのかなあと。できればネットで予約が取れるようにしてもらいたい。もう一つは、公民館をもう少し空けてもらえんじやろうかなと。老人が行っても若い衆が行っても子どもを連れて行っても使えるように。いつ見ても閉まっている。11月から自主防災組織を立ち上げようと思っているが、そこら辺の兼ね合いがあるので、出来れば空けて欲しいなあと。いつ行っても閉まっている公民館ではどうにもなりませんから。

市長

折角ですから、エンジョイスportsの会のことについて、1分位、お願いします。

参加者 Hさん

会員は130名位いるんですが、常時出てくるのは50名位です。大体、スーパー爺さんスーパー婆さんが1、2割、僕みたいな落ちこぼれが後ろのほうで。楽しいと言えば楽しいが、ついてはいけません。スーパー爺さんとスーパー婆さんが。参加しただけです、和気あいあいとやっております。今年から市の補助金がもらえたので、少し潤っているんじゃないかと、ありがとうございます。

市長

市民提案事業で出していただいて。申し込みの話は、先ず、公民館は基本的には月曜日以外は開いていると思うんですけど。開いてないですかね。

参加者 Hさん

開いているんですけどね。

市長

部屋が空いてないんですか。

参加者 Hさん

入ろうと思うたらここへ書けと言われ、公民館の本来の意味が違うんじゃないかなあと。

市長

利用者の人数とかも調べないといけないので、書いてもらわないといけけないものですけど。部屋が空いてないんですか。

参加者 H さん

趣味で使われている日が多いので。

市長

なるほど。なかなか公民館でしていただけるスポーツが少ないような気もするんですけど、これはライフパークの大ホールですか。ライフパークの大ホールは結構大きい所ですから、していただけるんじゃないかと思うんですが、公民館はなかなか講座とかが。それこそ生涯学習の各地区の拠点ということで講座が多いわけですが、部屋の中でできるもの、スポーツもあると思うんですけど、講座以外のもので使えるのは、確におっしゃるように少ないかと思います。公民館の使われ方についても、今後市民の皆様にご意見をうかがっていきたくて思っておりますのが一つと、ライフパークの申し込みは今ネットでは出来ないんですかね。出来ないんですね。なるほど。市の色々な体育施設はネットで申し込みが出来るものが多いんですけど、ライフパークは教育施設なんで生涯学習施設なんで、出来ないんだと思うんですよ。課題ですけど、今後なるべく市の色々な申し込みをインターネットで出来るようにと、方向を拡大しようと思っておりますので、今後見直しをする時に、申し込みはインターネットでしていただいて、そこから何日以内に申込金を支払ってもらわないとキャンセルになりますとか、そういうのも出来るんじゃないかと思っておりますので、見直しの時に検討したいと思います。

参加者 I さん

地元に戻りサッカーに携わっており先ほども発言され盛り上がってきてうれしい限りですが、もともとかなりサッカー処というか、たくさん大会を運営してまして、夏に、福田公園を中心にフェスティバルをさせてもらってます。県外からも含め約 70 チーム、延べ 1500 人くらい来てもらって運営してるんですが、現場の声からしたら、倉敷を代表する施設があってほしいと思う。実際に岡山国体で、すごいいい芝生を作っていただいたんですが、燦燦たる結果になって今は土に変わっています。サッカー場も穴が開いてまして、来ていただいて恥ずかしさの方が先にある。県外の方から来ていただく、遠くは名古屋の方から、九州の方から来ていただいて、ずっと 20 年来の付き合いで来ていただいているんですが、一回良くなって、その後ひどい状態になってるのは岡山県としても倉敷市としても、僕はここで過ごしてきた人間なんで、すごく寂しい思いをしています。そのところの施設整備があって、また倉敷に来てほしいという思いをしていただける環境があればと思います。現に岡山県の中で、2 大都市である岡山市と倉敷市、代表する二つの都市で、倉敷だけなんです、人工芝のグラウンドがないのは。美作もある、高梁のほうにも作られ赤磐にも岡山市もあります。倉敷だけが常時雨の心配とか、いっぱい使っても大丈夫とか、それこそ少年がものすごい人数が来て、毎日すごく楽しんでサッカーしてくれても、人工芝だとそんなに老朽化しないので、そういう意味でも施設ですね、あんなに体育館もあり陸上競技場もあり、サッカー場もあり、テニスコートもいっぱいあるような福田公園とか。倉敷に来たら福田公園があるぞと言ってもらえるような施設になってくれたらと思っています。あんな国体があったのに、かつてはとも今国体の担当 10 年位していますけど。各県に行ったときに、国体があったところとかは、国体の施設が基本的に残っています。施設の整備をせず壊れていったのは福田公園だけなのかなと。

市長

福田公園の大きいほうのグラウンドですか？

参加者 I さん

どちらもです。ラグビー、サッカー場の大きい方も、今は草の状態が多くなって、周りの方は土の面も見えて剥げた状態です。去年ミニ国体の中国予選もそこでしていただいたんですけど、本気の大会のときにその会場を使っていただくのは、なにぶん忍びなくて。チームスタッフとして思ったんですけど。そういう意味でも、2面があって一生懸命作っていただいたんですけども、やっぱり管理ができなかったんで、こちらとしても、申し訳ありませんとずっと言いながら。でも、来てくれることは来てくれるんで。そういう人たちを呼びたい。呼んでいっぱい来てくれたら、いっぱい倉敷に泊まってもらってるんです。毎年来てくれてますので、そういう意味でも倉敷から発信できるような場所を作ってもらいたいと考えております。ぜひ、倉敷を中心に代表するような施設ができればいいなと思っております。よろしくをお願いします。

参加者 J さん

今の追加のことですが、今倉敷市で、芝のグラウンドは一面だけです。各都市で1面だけのグラウンドを持つとる都市というのは、ほとんどないです。何面か皆持って、それも人工芝と普通の芝と双方持っている都市が非常に多い。今彼が言ったように、たくさん使う人がいっぱい今増えています。私ら30年前からしていた時分には、倉敷でも少年サッカーは6チームぐらいしかなかったんですけど、今は6倍ぐらいあります。シニアのチームも今70歳以上の全国大会がある位ですから、相当人数が増える割に、グラウンドの整備ができていない。今福田公園で陸上競技場がもう砂漠化されて、芝がなくなってますけど、陸上競技として使っている形跡もないんで、あそこを多目的広場の人工芝のグラウンドにさせていただければ、2面ぐらい取れるので、ぜひしてもらいたいなと思います。

市長

ご意見は承りました。倉敷市はファジアーノのホームタウンとしてサッカーについての支援をいろんな面でやっていきたいと思っています。先ほど言われましたように、芝が剥けているというのは、またグランドゴルフをされる方からも言われてます。大きいほうの競技場はなかなかメンテナンスが難しいんですけど、中ぐらいの方は定期的にはやってるんですけど、またすぐ剥げてしまうということにもなってますので。作った後の維持管理が非常に難しいなと思っておりますが、ご要望が高いことはよく分かりますので、すぐ何をできるかは申し上げられないんですけど、スポーツのいろんな設備の整備をする中で、そういうお声についても、しっかり言っていきたいと思っています。ありがとうございます。

参加者 K さん

「する・見る・支える」3つあるということで、高齢者の方等の話でもまして、まちづくりをどうするかというたら、ラジオ体操も必要だと思いますし、歩くとか、走るとか、ジョギングするとかになってくると思うんです。そうしたまちづくりをするために、環境の問題、道路とかいろんな問題があると思うんです。この休日に、美観地区でも全然交通を止めない状況、お客様が観光客の方が来られているときでも、横を車が通るような、そう

というような状況の中で、そういうのを止めたりして、このまちの道路が、なんとかストリートですよとか、皆さん歩きましょうというようなことで、高齢者の方が、親しむということ。もう一つは、まちをどうするのかと。大きい話になりますけど、ヨーロッパのクラブチーム、私バスケットが好きなので、バスケットでいえば、NBAなんかは、そういう都市を中心としたピラミッド型の成功例かね、商業的にもお金もうけをするということもありますけれど、そういう風に底辺から育てる、それからできない人でも楽しむ、それからあと、支えるというような、倉敷市は企業がたくさんありますので、どこに行くのかなと、企業スポーツで今年JFEが出ましたけど、果たしてそれだけで倉敷市がいいのかなということもやっぱり問題があるんじゃないかと思います。ファジアーノの話が出ましたけど、サッカーは他のところが強かったりしますので、バスケットで言いましたら、今bjリーグとかが各県に一つずつできるような状況、これが採算取れるのかは別の話にして、そういう盛り上がり欠けてるのが岡山県、倉敷もあるんじゃないかかと思えます。井原市も新体操でやっていますし、いろんなところが、自分らの競技、ということでされているので、そういうことを参考にされたらと思います。最後に指導者の問題ですけど、非常に難しい問題だと思います。やっぱり好きだけでもできんし。ただ、教育がちょっと足りない場面もあるんじゃないかなと思います。先ほどから小さい人たちの品位、品格が欠けるとる面がある。最終的に一人の社会人として育っていく。最後に高橋大輔になれるのは一人しかいないわけです。小学校から中学校で半分になり、高校でまた半分になります。そういうことも教育する指導者がいるのか。いい指導者が他の県にいる、岡山出身の方でも、今青山学院の高校の野球部の方なんか居られるし、いろんな高校、中学校もそうだし、元の部分を大事にしてそれを元に甲子園を目指そうというレベルの指導者がほしいなあと思います。高校の先生とよくお付き合いさせてもらっているんですけど、そういうところを大事にする。最終的に数だけじゃなく、大事なところを教えてやる、それが倉敷を盛り上げる、人に感動させる人に褒めてもらえる、応援してもらえる、そういう競技とか、年代別が、わっとできるような市になったらいいんじゃないかなあと。これはスポーツだけでなく文化にも関わってくると思うんですけど。

市長

よい御意見だったと思います。高橋大輔になれるのは一人、全国でも何人かしかいないわけですから。なる人を、自分たちがすごいなあと思ってスポーツをしたいとか。それをやっていく過程で、自分はスポーツが好きだということで、大輔君になれなくても日ごろからスポーツを楽しくというふうになる、転換される。ずっとスポーツを続けられていく方も多いと思いますし、やっぱりそういう強いのは無理だから、日ごろから散歩・ジョギングをしようと思う方もたくさんいると思いますので、それぞれの方たちが、それぞれの面で鍛えたり楽しんだりできるということが重要だと思います。いろんな面で、競技団体の皆さんも発表していただきましたけど、いろんな面で支えていくことが、非常に重要なことだと思います。

参加者Lさん

倉敷市の市営球場と陸上競技場の駐車場の関係ですけど、私も野球をやっていた関係なんですけど、駐車場、倉敷球場は少ないということで、過密する状況下にあったわけです。以前は向かいの空き地が臨時駐車場としてあったんですが。私の子どもも小学校で陸上を

やっている関係で、大会等で球場と陸上の大会が集うことがあるんです。そのときにバスの乗り入れは問題ないと思うんです。乗降の、降ろしたり、乗せたりという。駐車を赤いコーンでかなり、スペースを取るわけですよ、球場の前を。そうすると、バスのスペースで3台4台取っちゃう。そうでなくても過密した状況下で駐車場確保が困難なところにもってきて、バスを優先に止めてもらおうと、通常の父兄の方の駐車場が確保できない。バスの乗り入れはいいにしても、どこかに回避するというような形にすることで、スペースが30台40台の確保できると。陸上してる側だけではなく、野球場を使用している方も、陸上のほうで利用されてる父兄の方もそうでしょうし、ちょうどバスがどーんと3、4台止まっちゃうと、スペースを、安全確保のためにコーンを広く取る。そのスペースがバスのために使用されて、一般の観客の人たちが右往左往する中で、車があっちこっちで動きひしめき合うという状況があるので、バス等の回避が可能であれば、一層駐車スペースが少ない中で、使用できると思います。よろしくをお願いします。

市長

四十瀬の球場ですよ。あそこも、駐車場を最近増やしたわけですけど、バスが分量取りますので、一旦降ろしたらまた逃げていただくというのを、もっと進めていくようにしたいと思っております。協力していただかないといけないんですけど。ありがとうございます。四十瀬のほうも、子どもさん陸上をされてると言われてましたね。確か、今年度中か来年度中に、2種の公認のやり替えをしないと。2種がなくなると困るので。半年ぐらい多分かかると思うんですけど、やり直しをしようと思っていますので、がんばっていただければと思います。ありがとうございます。

参加者 Mさん

最初に市長がおっしゃったように、スポーツを楽しむ時代に日本はなっています。平成17年だったか、文科省のほうで総合型のスポーツクラブを各地域に1つずつ作りましょうというようなお話がありまして、それはまさにJリーグを作った時に「100年構想」という構想をたちあげまして、地域に貢献できるクラブというような考え方で、スポーツ一般ですね。ただサッカーだけじゃないんだと、当然ヨーロッパの有名なスポーツクラブではオーケストラをもっているようなサッカークラブがあります。アカデミーまで広げている、コミュニティの中でそれだけのことをやっていくという考え方で。先ほどラジオ体操の話がありましたけれど、「おらがまちのスポーツクラブ」の中にお年寄りから小さい子どもさんまでがいる。みんな顔がわかって話しができる。戦争経験も語ってもらえるだろうし、色んな昔あった遊びを教えてもらえる。クラブにいる仲間としてのつながり、そういうことが「スポーツをテーマにするまちづくり」ではないかなというふうに。

市長

世代間交流ですね

参加者 Mさん

そうです。私がかんばっているのは、グラウンドゴルフのクラブと中学生と一緒にグラウンドゴルフをするとか。そういうことをやっていこうと思っているんです。地域の人に愛されるスポーツクラブ、支えてもらえる。地域の方は「自分はサッカーはしないけれど、

編みものをしながらサッカーを見るのが好きなんだ。だからこのクラブに入ったんだ」というようなおばあちゃんがいてもいいと思う。そういう考え方になってくれれば、スポーツをテーマにしたまちづくりが今、必要じゃないかと。そういう意味では、先ほどからお話がでた環境というのは全国的には、行政に頼らない施設づくりというように、サッカーは特に動いています。民間のレベルで行政と戦いながら、グラウンドを作ったり、芝を植えていったり、我々でやろうというような動きがでている。でも、グラウンドの場所とか土地など色々な問題があってなかなかそうもいかない。みんなでボランティアでやろうとしている人はいくらでもいるんですけど、なかなかそこへ手がいかない。先ほど福田公園の話がでましたが、使用する人がみんな集まって、種をまいたり、草を刈ったり、水をやったり、ということは皆、逆に良いプランをつくれるんだったら、みんなでやろうという考えの人がほとんどです。皆さんいらっしゃると思うんです。そういうところに投げたいか、任せていただいたら、コストの面も当然のごとく、そこまでかからないと思うんです。水なんかもそうですけれど、今の常識は、芝は天然の雨を待たせるんです夏は。これ以上枯れたら難しいかなということまで待って水をやるんです。なぜかという根がはるんです。そのほうが下へ下へ水を求めていきますから。根がはったら、芝が強くなるんです。それを上から、簡単にやって、子どもと一緒に。上から簡単に環境を与えてしまうと、育たない。そういう考え方も少し取り入れ、管理のコスト面も軽減されて、その分、芝のグラウンドが増えたり、人工芝を入れることによって、芝のグラウンドの養生ができる、時間もとれるというような考え方になればと思います。それから春先に、人工島の件で玉島で、シンポジウムがあったと思うんですけど、あの時に人工島の使い方、経済観念もあるんですけど。房総半島では、民宿が芝のグラウンドを一面確保・管理しているんです。そこに大学の合宿、いろんな所のスポーツの合宿、サッカー・ラグビー・信州のほうもそうですけれど、そういう合宿を全部呼んで送迎バスをつけて、民宿が全部芝の管理、グラウンドの管理もしている。人工島もあれだけまだ、場所があいているのも何か良い形で、県からの会合とか、形をとっていただければ、今いったように地域の方方で運営できる、そういうスポーツ施設ができればと思います。環境、できれば地域のコミュニティで少しずつ、環境をある程度の単位、倉敷市は3市合併になりましたけれども、ある程度の単位で動ければ、一番良いコミュニティの大きさでないかと思えますけど、よろしくをお願いします。

市長

玉島のハーバーアイランドのことですね。工業地帯ですので今は空いているところが多いんですけど、県も誘致をしているんです。あそこはちょっと難しいと思うんです。地区指定もしておりますので、玉島には、玉島の森もありますので、いろんな所を使えばと思っています。環境づくりについて大変、地域の皆さんとか使用者の方の参加をいただいてって事は、非常に良いポイントを言っていたと思います。

世代間交流は、大変重要なことだと思います。この前山陽新聞に還暦の野球と小学生の野球と対戦し、小学生が勝ったんですけどか、そういうスポーツを通じた世代間交流は非常に重要なことだと思います。行政ばかりでできるものでもありませんので、地域の皆さんと一緒にやっていきたいと思えます。ありがとうございます。

参加者 Nさん

柔道の関係者です。施設、駐車場のお話があったと思います。駐車場の件で、スポーツの大会をさせていただいても、小さなトラブルが発生して、機嫌の悪い保護者の方もでてくるんです。小さいことが段々大きくならないようにと思い、勝手な提案ですけど、広げるわけにいかないの、立体駐車場はどうかと思いますので、よろしくをお願いします。

市長

ありがとうございました。四十瀬ですね。検討してみますが、ちょっと難しいかと

参加者0さん

僕は岡山市で総合型地域スポーツクラブをしています。このテーマを見た時に、まさしくこれが目的で作っているような 文科省が平成8年にスタートを切っていると思います。平成9年にかけて百万円の補助をいただきました。このとき倉敷市にも同じように話がいったはずですが、色々な事情で断っているということで、総合型地域スポーツクラブ、文科省が進めている、先ほど皆さんが色々言われたことがみな入っています。種目の多様性、単一の種目しかないクラブへの一般的なスポーツは勿論、ニュースポーツ・フィットネス、時には文化活動なども用意されている。私のところには、ぷーさん図書館が入ってます。世代・年齢の多様性、子どもと特定の仲間だけが入るクラブではなく、色々な世代の人が参加することで、互いに交流することもできる。現実に私は、個人的には卓球の指導をしておりますけれど、中学生から一番大きい人は76歳。レベルの多様性。初心者から、トップレベルまで、楽しみたい人、競技を極めたい人、それぞれのレベルにあわせ参加できる、全国大会に出られるような人までそろっています。理想的に進んでいるかという、そうでもないんですけど、現在あるクラブは剣道・柔道・ミニバス・フットサル・ドッジボール・バレーボール・バトミントン・卓球・図書館です。剣道・柔道・ミニバス・フットサル・ドッジボールは子どもさんのスポーツ少年団、それ以外は成人の部ということになります。

スポーツはする人・見る人・支える人で成り立っているということですが、まちづくりという事になれば、する人の割合をやはり増やさなければならぬ。する人は見る人にもなれるし支える人にもなれます。自分の経験から、自分がしている場合は他のスポーツも楽しく見ることもできるし、支える場合もより理解して支えることができると思います。まちづくりとして考えた場合、町を構成している一人ひとりがスポーツを身近にした社会性を持った人なら、色々な意味でよい町になっていくと思います。一流のスポーツマンは一流の社会人になれるという言葉があります。一流にならなくても、スポーツ少年団・中学校部活、これは特に重要と考えます。小さい時に体力がつく、健康になる、礼儀が覚えられる、指導者と保護者とともに、感謝する気持ちも出てくるようになるでしょう。将来のために我慢して協力する心、負けた時に跳ね返す気力、努力すれば報われるということを知ってくる。選手として強くなろう、上手になろうという努力する過程で、学校や家庭で得られないものが、社会で生きていくために必要なものが学べます。総合型地域スポーツクラブ、生涯スポーツということ考えた場合に、僕は地元の小学校を拠点としておりますけど、選手としてのスポーツ、レクリエーションとしてのスポーツ、位置づけやレベルなども違うけれど、その中から地元に貢献してくれるような状態になれば、まちがスポーツと融合した熟成したような町になると思います。

市長

総合型スポーツクラブの観点からのご意見ありがとうございます。スポーツそのもの、スポーツの施設、スポーツを通じたまちづくりへの取組みについてなど、色々な観点からご意見をいただきました。色々な観点で、多くの市民の皆さんがスポーツに携わっていくことが大切なことではないかと思えます。今日きてくださっている方たちは、スポーツに関心があり、自らもスポーツをされていらっしゃる方が多いと思いますが、私がよくお伺いするお話では、どこへ行ったらスポーツができるのか。スポーツをされていなくて、でも踏み出したい。お散歩・ジョギングから始めていくのは、重要だと思えます。地域で始めて自分はやったことがないけど、テニスをやってみたい、どこへ行ったらいいのかわからない人が多いという感じを受けております。今年度、市が取り組みしているのが、色々なスポーツ団体があって、スポーツ情報を発信されていらっしゃるんですけど、そういうものを、市のホームページの中へ見やすいように、興味を持ったらどこへ行ったらできるか、見ることができるのかを充実しないとイケないと思っています。スポーツをあまりされない方からよくいわれることについては勿論、競技施設の充実、スポーツ団体の皆さんの活躍というのも重要なことと思っております。

参加者Pさん

先ほどから聞いていたんですけれど、スポーツを通じて、マナーの問題とモラルの問題があると思うんです。私が一番感じるのは、クラブ活動や少年団をやっている多くの子どもたちが、自転車に乗っていて並列なんです。1列で走らない。いろんな人が通っていても、知らん顔してぺちゃくちゃ話しています。これを、まず一番に指導者は直していただきたいと思えます。私は常にそれを思うんです。自分の体を守らない子が、絶対に大きくなっても、スポーツをしても、大きくなって人のため世のため、働くような子はできません。私は自分で体験していますから。徹底してそういうことを指導して、小さい時からモラル、スポーツを通じてモラルを、倉敷市民が一体となってやっていただければ、本当に明るい倉敷市ができると思えます。よろしく願いいたします。

市長

自転車のマナー、登下校の時もそうですけれど、非常に危ないですので、マナーというかモラルというか、安全の面からも非常に重要なことだと思えます。

今日、色々なご意見をいただき、特にまとめもできないかと思えますけれど、これからの倉敷市のスポーツの施策の中に、勿論すぐにできるものもありますし、できないものもあるかもしれませんが、スポーツをこよなく愛してくださっている皆さま方が、こういう思いを持っていただいているということが、今日よくわかりましたので、市の施策のに反映させていきたいと思っています。貴重なご意見、ご発表、ありがとうございました。